

事務事業評価シート（評価実施年度：平成27年度）

上位の施策名称 施策Ⅲ-1-2 発達段階に応じた教育の振興

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長 特別支援教育課長 三島 賢隆 電話番号 0852-22-5420

事務事業の名称	就学支援事業	
目的	(1) 対象	障がいのある児童生徒
	(2) 意図	教育的ニーズに応じた最適な就学の実現
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・教育的ニーズに応じた最適な就学を実現するため、各市町村教育委員会での困難事例や特別支援学校への就学について専門的な立場から審議を行う教育支援委員会の開催 ・障がいのある幼児とその保護者が、就学先の適切な情報を得られるよう、相談員が情報提供・助言を行う巡回就学相談会の開催 	

2. 成果参考指標

(1) 成果参考指標	指標名	教育支援委員会の判断と就学先の一致割合	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位
			目標値		95.00	95.00	95.00	100.00	
式・定義	教育支援委員会の判断と就学先が一致した就学者数/全就学判断者数×100		実績値	90.00	89.00	87.00	89.90		%
			達成率		93.70	91.60	94.70		%
指標名	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位		
								目標値	
式・定義			実績値	0.00	0.00	0.00		%	
			達成率		0.00	0.00			%

3. 事業費

	26年度実績	27年度計画
事業費(b) (千円)	235	236
うち一般財源(千円)	235	236

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した（実施予定、一部実施含む）
---------------------	------------------------

5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

- ・市町村の教育支援委員会判断と実際の就学先とが異なるケースが1割程度ある。
- ・巡回就学相談会により、市町村教育委員会の専門性の向上を図っている。
- ・就学後も、就学先の適性について検証している。

6. 成果があったこと（改善されたこと）

- ・他事業での「早期からの一貫した支援体制の構築に係る担当者会議」等により、市町村において早期からの相談支援システムの構築が進んでおり、児童生徒や保護者等への適切な情報提供などによる就学への理解が進んでいる。

7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

①困っている「状況」

- ・就学先について、教育支援委員会の意見と児童生徒や保護者の希望とが一致しないケースがある。

②困っている状況が発生している「原因」

- ・就学事務に係る市町村教育委員会の担当者の専門性の不足。

③原因を解消するための「課題」

- ・限られた体制の中で、各市町村教育委員会の専門性を向上させること。

8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

- ・就学に関わる具体的な事例等を交えた市町村教育委員会の担当者、就学に関わる関係者向けの相談・研修の充実を図り、支援していく。
- ・地域の実情に応じた市町村における早期からの相談支援体制のシステムの構築をさらに進める。

◎課(室)内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効率的・効果的に行ってください。

◎上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。

9. 追加評価（任意記載）